

授業コード / Code	科目名 / Course Title	担当者 / Instructor	履修年次 / Semester	授業形態・単位数 / Style・Credits	必修選択の別 / compulsory subjects or optional subjects
j40206	保育内容総論	角藤 智津子	2年次・後期	演習・1単位	保育士必修

授業の概要 / Course Outline
乳幼児の保育について、理論と実践を融合して学んできたこれまでの知識と経験を生かし、子どもの発達や現在の社会状況等にふさわしい保育内容、保育方法を考え、探求する。2017年(平成29年)に国の示した幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある保育内容を理解し、保育内容5領域を総合的に展開できる保育の専門家となるよう学ぶ。授業は、可能な限り、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、学生が主体となる対話的授業形式を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives	ディプロマポリシーとの対応関係 / Relationship with the diploma policy
保育と保育内容の関連について知り、自らの保育観や子ども観を形成する。	A-① D-①
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。	A-② B-②
子どもの発達と保育内容の5領域の関連を知り、保育における評価の意義を理解する。	B-① C-①
多様化する保育ニーズを知り、ふさわしい保育内容を自ら考えられる力を獲得する。	C-② D-②

授業方法 / Method of instruction	対面授業
活用される授業方法 / Teaching methods used	【－】プレゼンテーション 【－】PBL(課題解決型学習) 【○】グループワーク 【－】実習・実技 【－】ディスカッション・ディベート 【－】該当なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記) End of Semester Examination (Written)	0%	
レポート試験 Report Examination	30%	基礎的事項を理解し、自分なりの考えを記述できるか。
実技試験 Practical skill test	0%	
平常点評価 Continuous Assessment	70%	自分なり表現方法で、課題の報告、意見の発表ができるか。

教科書 / Textbooks
1. 鈴木裕子編著『保育内容総論 乳幼児の生活文化』ミネルヴァ書房 2018年
2. 厚生労働省 『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館 2018年

参考書 / Reference Books
授業時に紹介する。

予習・復習 / Preparation・Review
予習: 毎回授業の最後に、教科書の次回部分を示すので読んでおく。 復習: 毎回授業時に、授業内容に関する簡単な課題を出すので、Google フォームで締め切りまでに提出する。 (予習復習の時間は90分程度)

課題に対するフィードバック方法 / How to give feedback on tasks
Google Classroom により添削、採点結果を伝達する。

特記事項 / Special Note

授業スケジュール / Course Schedule

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業回数 Lecture	テーマ / Theme
	内容 / Contents
01	I. オリエンテーション
	授業の概要、評価方法、注意事項など。Classroom登録の確認。
02	II. 保育の全体構造と保育内容 (1) 保育の基本と保育内容
	保育観や子ども観を確認し、保育の基本的な考え方、保育と保育内容の関連について学ぶ。
03	II. 保育の全体構造と内容内容 (2) 子どもの発達や生活に即した保育内容(その1)
	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型こども園教育・保育要領の内容
04	II. 保育の全体構造と内容内容 (2) 子どもの発達や生活に即した保育内容(その2)
	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の相違点
05	II. 保育の全体構造と保育内容 (3) 保育内容の歴史の変遷
	19世紀頃のヨーロッパの保育内容が、日本に導入されどのように変遷してきたかを社会的背景とともに学ぶ。
06	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (1) 養護及び教育が一体的に展開する保育
	(2) 子どもの主体性を尊重する遊びによる総合的な保育
07	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (3) 環境を通して行う保育
	子どものある行為を可能にするアフォーダンスとしての「環境」の意味と、保育内容「環境」の意味を考える。
08	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (4) 生活や遊びによる総合的な保育
	保育内容の具体的な展開を3法令及び遊びの分類から考える。
09	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (5) 「子どもの発達特性」および「個と集団の発達」と保育
	子どもの発達特性を知り、個と集団両方の発達が必要であることを知る。
10	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (6) 家庭・地域・小学校との連携
	保育者は各所との連携の担い手となる必要がある。
11	III. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (7) 保育における観察・記録
	より良い保育実践のために、観察、記録、評価・改善やPDCAサイクルの必要性について学ぶ。
12	IV. 保育の多様な展開 (1) 長時間保育
	現代の社会状況の中で、長時間保育はどのように行われているのかを知り、その役割と配慮すべき点を考える。
13	IV. 保育の多様な展開 (2) 特別な配慮を必要とする子どもの保育
	特別な配慮を必要とする子どもを理解し、適切な配慮について考える。
14	IV. 保育の多様な展開 (3) 多文化共生の保育
	現代社会にはさまざまな人や文化が共生している。多様性を認め合い、互いを尊重する保育内容を考える。
15	まとめ 最終課題 オンラインで出題の予定
	これまでの保育内容総論の授業で学んだ内容を基に、課題に取り組む。